

「駅舎屋根の崩落」について

6月30日に土讃線大田口駅において、駅舎の屋根部材の一部が落下する事象が確認された。

本部はこの事象に対し、7月2日付発第103号「土讃線『大田口駅駅舎の屋根の崩落』について」申し入れを行い、会社より以下のとおり回答があった。

1. 今回の事故をどのように受け止めているのか会社の考え方を明らかにされたい。

今回の土讃線大田口駅構内「大田口駅駅舎の屋根の崩落」では、一般の方の怪我、列車運行への影響はありませんでしたが、一步間違えば、一般の方に対する重大な事故に繋がる事象であると重く受け止めています。

現在実施している定期検査時に建物の屋根・壁・天井・設備等において、飛散・落下の恐れがある部材等を見落とすことがないように、さらなる検査精度の向上に取り組むことが重要であると考えています。

2. 屋根部材が落下した原因について明らかにされたい。

本事象は、屋根部材の経年劣化により屋根裏をつたって雨水が侵入し、屋根を支える木材の腐食が進行したことにより、屋根を支える部材と雨どいが落下したものと推定されます。

3. 再発防止と今後の対策について明らかにされたい。

本事象後大田口駅については落下の恐れのある箇所の撤去等による安全対策の実施を行いました。なお、大田口駅については老朽化が著しいことから、2024年度中の駅舎撤去を予定しており、速やかに工事を進めてまいります。

また、今回の事象を受け、大田口駅と同様の構造である木造駅舎95駅について、2024年8月までに緊急点検を実施するほか、検査の結果を記録し、老朽化の進行状況に応じた適切な方法による補修の実施を優先的にまいります。

J R 四国労組ニュース

2024年7月16日（No.3／2終） 発行責任者／大谷 清 編集責任者／和田 庄平

4. 駅のコンパクト化の進捗状況と老朽化した駅舎の維持管理体制について展望を明らかにされたい。

四国中に経年劣化を進む駅舎が多くあることから、建替え等を進めています。2014年度から、自治体に駅舎の整備・活用等のご相談をしており、自治体による活用が難しい場合は、当社単独での建替えを進めています。現時点ではコンパクト化の実績は16駅（譲渡3駅）です。

今回の事象を踏まえて、定期検査時に建物の屋根・壁・天井・設備等において、飛散・落下の恐れがある部材等を見落とすことがないように、さらなる検査精度の向上に取り組み、老朽化の進行状況に応じた適切な方法による補修を実施します。

また、今回の事象を受け、並行して自治体協議を積極的に進め老朽化が進行している駅舎の建替等、撤去計画を進めてまいります。

幸い、この事象によって、お客様及び沿線への被害はなかったが、一歩間違えれば人命に関わる事象であった。

J R四国労組は、安全・安定輸送の確立がすべてに優先し、尊い命を預かる私たちの重大な使命であることを強く訴えるとともに、引き続き会社に対する「安全へのチェック機能」強化の運動を展開する。

以 上